

宇宙通信アドバイザーボード（第1回）議事要旨

日時：令和6年2月26日（月）13：00～15：00

場所：中央合同庁舎2号館 9階 総務省 901会議室 及び WEB会議

出席者：梅比良座長、石田構成員、加保構成員、小塚構成員、藤本構成員

議題

- （1）開催要綱及び進め方について
- （2）宇宙通信政策をめぐる動向について
- （3）質疑応答

議事要旨

議題の前に、互選により、梅比良構成員が座長に選任された。

梅比良座長により、議題に沿って議事を進行。

「議題（1）開催要綱及び進め方」について、宇宙通信アドバイザーボード事務局（以下「事務局」という。）及び内閣府宇宙開発戦略推進事務局より、「議題（2）宇宙通信政策をめぐる動向について」について、一般財団法人衛星システム技術推進機構、国立研究開発法人情報通信研究機構、事務局及びA.T.カーニー株式会社より資料に沿った説明が行われた。

その後、「議題（3）質疑応答」において、「議題（2）宇宙通信政策をめぐる動向について」での説明に基づき、各構成員より、各々の専門的な知見からの意見交換が行われた。主な内容は以下のとおり。

- 衛星通信に関する事業の位置づけの変化について（通信市場の中で衛星通信事業の占める割合が増えていくと捉えるのか、地上通信事業の成長余地と併せて衛星通信事業が成長していくと捉えるのか等）
- 衛星通信事業のコスト競争力の変化について（地上通信ではカバー出来ない部分を衛星通信で行うという以前の使い方から、衛星通信事業がメジャープレイヤーになり得る可能性が出てくることになった理由とコスト競争力の変化との関連性等）
- 衛星通信市場の状況と諸外国の研究開発力との関係について（諸外国の研究開発力に

関して、特定の国々の動向を把握しておくべきなのか、衛星通信に関して現在非常に大きな変化が起きていることを踏まえもう少し幅広く様々な国々の研究力を見ていくべきなのか等)

- 日本企業の衛星光通信産業への参入見通しについて
- 静止衛星に関する日本の技術の現状について（短期化に合わせた低価格の衛星と柔軟性の確保可能な高機能な衛星に方向性が二極化していく中で、それぞれに必要となる技術に関する日本の現状はどのようなものか等）
- コンステレーション事業における今後日本が立ち位置を確保出来る技術分野について
- 低軌道衛星の周波数の議論及び動向について

以上